

# 社会医療法人 信愛会 交野病院

☎072-891-0331

<http://www.katano-hp.or.jp/>

**所在地** 交野市松塚39-1  
**交通** 京阪交野線「郡津駅」西出口から徒歩8分  
**院長** 畑笠武彦(関西医科大学・大学院卒、医学博士、平成24年より現職)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	-	-
13:30~15:00	○	○	○	○	○	-	-	-



畑笠武彦名誉院長

平成27年5月に新設移転。13の診療科で、地域の皆様の健康維持に貢献しています

## 「すべては患者様のために」を胸に、良質な医療の提供に尽力。 平成27年5月の新設移転でさらなる地域貢献を目指す

和40年に46床の病院として開院したのが当院のはじまりです。開設以来、50年に渡り地域のニーズを踏まえながら、地域医療の中核を担う病院としての使命を果たすために、診療を続けて参りました。「誠実で信頼される良質な医療」を基本理念とし、一層の努力を続けております。今後の地域医療ニーズに応えるべく、診療科の新増設や救急医療体制の強化、病院施設内のアメニティの向上を目指し、平成27年5月に、交野市松塚の地に新設移転。地上7階建て、208床(一般173床、療養35床)を有する施設が完成しました。新設に伴い、広範囲かつ鮮明な画像の取得を目的とした術中画像装置のほか、高精細画像が得られる3テスラのMRIを導入。5つの手術室を設け、より安全で正確な手術が行える環境整備に尽力しています。リハビリテーションの分野では、回復期リハビリテーション病棟35床を設け、専任医師による専門性の高いリハビリの提供に力を注いでいます。脊椎損傷患者などの体に装着するロボットスーツを導入し、院内のリハビリの向上・進歩に努めています。さらに、今後増加が予測される脊椎脊髄疾患に対応するために、院内に「脊椎脊髄センター」を併設。6名の専門医をはじめとするメディカルスタッフのチーム医療で、脊椎や脊髄異常の的確な診断に努め、外科的な手術を含めた適切な治療の提供を目指しています。24床を有した人工透析室では、慢性期維持透析患者を対象とした治療も行っています。昨年11月には病児保育室を院内に開設。お子様の体調の変化に対応するため、小児科医師や看護師をはじめとするスタッフが連携を取りながら、お子様の受け入れを行っております。これからも地域の特性を多方面から分析し「来てよかった病院」と皆様に思っていただけの病院を目指して職員一同、日々研鑽に努めます。



1階エントランスの総合受付。エントランスホールには、自由にご利用いただけるラウンジスペースを設けています



### 脊椎・脊髄疾患の手術に使用できる術中画像装置

手術室内でX線透視画像やCT画像のような画像が撮影できる画像診断機器を導入しました。3Dナビゲーションシステムで、患部の位置情報をリアルタイムで確認しながら手術を行うことが可能です



### より鮮明な画像で正確な検査に努める3テスラMRI装置

頭部、頸部、骨盤部、脊椎、四肢などの検査に使用できる検査装置。従来装置と比較して局所を対象にした超高分解能撮像ができるため、より鮮明な画像での診断・治療が可能になりました



### リハビリの向上を目指す動作支援ロボットスーツを導入

リハビリテーション室に、歩行リハビリ訓練用ロボットスーツを導入しました。脊髄性筋萎縮症や筋萎縮性側索硬化症などの患者を対象に使用し、歩行機能改善・訓練に用いています



医師、看護師、臨床工学技士が安心・安全な医療を提供する人工透析室



救急部門では、24時間365日患者を受け入れる体制の強化に努めています



# 「すべては患者様のために」 地域の中核病院として 良質な医療の提供に尽力

開院から50年に渡り、地域住民の健康を守り続けてきた交野病院。昨年5月には新病院が完成し、地域の中核病院として、ますますの期待が寄せられる。「すべては患者様のために」を信念とする畑埜名誉院長が語る今後の同院のあり方とは。



社会医療法人 信愛会 交野病院

畑埜 武彦 名誉院長

## 地域医療への取り組み

誠実で信頼される医療を提供し  
地域医療に貢献を続ける

昨年5月、13の診療科と208床の病床を有する新病院がオープンした交野病院。交野市では希少な外科系を有する総合病院として、地域医療の中核病院としての役割を担っている。「開院から50年、市民の健康のために貢献する」をモットーに、地域医療の基幹・中核病院として役割を果たしてきました。何度かの増床を経て地域のニーズに応じた診療体制を整えて参りましたが、前病院はまだまだ利便性に優れているとは言いがたい状況にありました。今後も変化し続ける医療ニーズに応え、急性期・回復期慢性期の患者様に対応するために、新病院には一般病棟138床、回復期リハビリ病棟35床、療養病棟35床の各病棟を設け、院内のアメニティも向上させました。日本の社会は、今後ますますの少子高齢化の時代がやってくる。団塊の世代が75歳以上になる2025年には、大阪府の75歳以上の高齢者は、153万人を超えることが予想されています。当院も地域の人口動態やニーズを踏まえながら、改革を進めていく必要があると考えています。地域の大学病院やかかりつけ医、在宅医療分野との連携を強め、医療から介護までを地域で完結する体制の強化に励みたいと話す畑埜名誉院長。10年、15年後を見据えて、地域を支える医療機関として改革を進める同院は、地域住民にとって心強い存在といえるだろう。

## 脊椎脊髄疾患への対応

脊椎脊髄センターを設置し  
診療の個性化を図る

「現在、7万8000人の交野市の人口のうち、65歳以上の方が男性は約9000人、女性は約1万1000人いらっしゃいます。超高齢化社会の到来とともに今後増加傾向にある腰痛や手足のしびれ、歩行困難などの脊椎脊髄疾患の受け入れに対応する『脊椎脊髄センター』を院内に設置したことも新病院の大きな取り組みのひとつです。脊椎脊髄疾患の専門的な診断・治療ができれば、高齢者のQOL(生活の質)の向上にも繋がります。地域医療に大きく貢献できるものと考えています。実際に地域における脊椎脊髄疾患に対する医療の需要は非常に高く、昨年5月から10月までの半年間の手術件数は266件にのびりました。センター設立ですます診療の幅が広がる同院。もうひとつの大きな取り組みは、経営企画室の開設と名誉院長は語る。「昨年より院内に経営企画部門を設けました。当院の経営状況や職員の人員配置などを客観的に分析する部門ができたことにより、一般病棟、回復期リハビリ病棟、療養病棟がうまく循環するようにになりました。このことは患者様にとっても大きなメリットだと思います。データを分析し、進むべき方向を明確に提示することで、職員全体の理解と協力度が高まったと感じています。スタッフと同じゴールを見つめ、各診療科が調和を図る同院。良質な医療を提供するための体制確立が少しずつ進んでいるようだ。

## 人材育成に対する想い

「すべては患者様のために」  
利他の心で治療にあたる

職員の意思統一や職員相互のコミュニケーションを図ることを目的に、同院では月に1回、院内スタッフが集まる朝礼を行っている。「朝礼で私が毎回伝えていることは、利他の心を大切にしてほしい」ということ。他者のために尽くすこと、患者様に尽くすことは最終的には病院のため、職員のためにつながると思います。「すべては患者様のために」。このことを職員一人ひとりが自覚を持って業務にあたること。「来てよかった病院」と皆様から思っていたできるように、これからも少しずつ前進していきたいです。自院の経営改善や新しい医療体制への迅速な対応など、常にアンテナを張り改革を進める畑埜名誉院長。その根底には「すべては患者様のために」という信念が貫かれている。

- 1.「誠実で信頼される良質な医療」を基本理念に、地域の医療・介護・福祉の向上と発展に貢献
- 2.受付、各診察室、検査室、救急外来が設置された同院1階エントランス
- 3.脊椎手術に特に有用とされる画像診断機器を導入し、より安全な手術に努めている



国道168号線沿いに位置する新病院。診療科の増設や救急医療体制を強化したほか、施設内のアメニティを充実させ、地域住民の健康と福祉の貢献を目指す



社会医療法人 信愛会 交野病院

PICK UP

## 各分野の専門医が揃う 脊椎脊髄センター

担当医

寶子丸 稔 先生

広島県出身／京都大学医学部卒／日本脳神経外科学会専門医、日本脊髄外科学会指導医／日本脳神経外科学会、日本脊髄外科学会、日本脊髄脊髄神経手術手技学会、日本脊髄障害医学会所属／大津市民病院脳神経外科診療部長、暖生会脳神経外科病院信愛会脊椎脊髄センターを経て、昨年5月より現職。的確な診断で、外科的な手術を含めた治療法を提供している



80歳以上の約3割が  
脊髄圧迫による疾患を発症

## 脊椎や脊髄の異常から発生する 腰痛や手足のしびれ、痛みを治療

同法人である信愛会に属し、四條畷市中核病院である暖生会脳神経外科病院にあつた脊椎脊髄センターを、昨年の新設移転に伴い同院に移設。信愛会の中で統合された機関として機能するために、新たなスタートを切った交野病院「脊椎脊髄センター」。寶子丸院長に、センター移設による取組みについてお話をうかがった。「脳神経外科医と整形外科医が所属し、ふたつの専門領域から治療を進めているのが当センターの特色です。体のしびれや痛み、歩行困難に悩む方など、どの診療科を受診していいか迷う方を受け入れ、適切な診断のうち、診療を行っています。近年の生活習慣の変化に伴い、腰痛や頸部痛、手足のしびれや痛み、運動障害を訴える方が年々増加しています。これらの症状の多くは、脊椎の異常により発生します。当センターで診る疾患で多い『変形性頸椎症』は、頸椎が変形することにより、脊髄が圧迫されて症状が発生するもの。高齢になるほど発生率が高くなり、80歳以上の3割近くが頸椎の変形により脊髄が圧迫されているというデータがあるほど、私たちの身近な疾患です。

良質な医療の提供はもちろん  
予防、リハビリ分野にも力を注ぐ

慢性的に続く腰痛は  
頸椎異常が原因である可能性も

脊椎脊髄疾患を全般に扱い、診療治療を行う同センター。かかりつけ医からの紹介患者も積極的に受け入れ、地域の医療機関との連携にも取り組んでいる。「長年、腰痛に悩んでいて、腰に異常がないと診断された方はぜひ、当センターを受診していただきたいです。腰痛は頸椎の変形や異常から引き起こされていることが多く、手術で脊髄の圧迫を軽減することで痛みが改善される可能性があります。脊髄手術で腰痛が治る可能性が高いということを、たくさんの方に知っていただきたいですね。当センターで行っている手術の半数近くは、頸椎椎弓形成術(ついきゅうけいせいじゅつ)の手術で、DPC対象病院(厚生労働省より急性期の病院として必要な条件を満たしている病院)のなかでも全国トップクラスの術数を誇ります。また、センターの施設

面においては、脊椎手術に必要なものすべて揃っていると自負しています。脊椎手術には特に有用とされる画像診断機器を導入したことにより、安全性が高まり、従来困難と考えられていた症例に対する固定術が可能になりました。また、顕微鏡や内視鏡手術器を用いた低侵襲な手術も行っています。小さい傷口で手術ができるので、出血も少なく、入院日数も少なくてすむところもメリットです。体に負担が少なく、入院日数が少ないとなると手術という選択肢もより身近なものになるのではないだろうか。手術に対する抵抗のある方、長年、腰痛や手足の痛みで悩んでいる方は、ぜひ受診を検討してみたい。「リハビリ分野においては、ロボットスーツHALを導入し、脊髄損傷に対するリハビリ治療も行っていく予定です」。知識の向上と技術研鑽のため、専門知識を持った理学療法士や手術のエキスパートを招いた研修にも積極的に取り組んでいる。

脊椎脊髄疾患の予防のために、年に6回、市民公開講座を開催している同院。「しびれや痛みの予防法」など、市民の関心の高いテーマを取り上げ、定期的に情報提供を行っている。「予防法は症状や生活環境によっても異なりますので、外来患者様にはおひとりおひとりに合った予防法をお伝えしています。センターで手術を行うだけではなく、院内の各部門とも連携を強め、予防やリハビリ分野にも力を注いでいきたいです。また生まれたばかりのセンターではありますが、今後あらゆる脊椎脊髄疾患に対応する体制を整え、日本でも有数のセンターを目指していきたいです」。背骨の健康、ひいては全身の健康を守るために、患者様と一緒に努力していきたいと話す寶子丸院長。術後の患者様の笑顔を糧に、これからも最善の治療を追求していく。



1.顕微鏡を用いた低侵襲な手術に努め、できる限り負担の少ない手術・治療を心がけている 2.脳神経外科と整形外科医が属する同センター。脊椎外科医の育成に取組むなど、人材の育成にも注力している

Column

## 専門医療にできること!

### 画期的な動作支援 ロボットスーツを導入

皮膚に流れる微弱な生体電位信号を体に取り付けたセンサーが感知し、コンピュータ制御によって各関節のモーターを適切に稼働させることで装着者をアシストする自立動作支援ロボットスーツ



リハビリテーション科では、医師・看護師・理学療法士・作業療法士などがそれぞれの専門性を活かしながら治療を進めている

### 頸椎椎弓形成術は 日本トップクラスの症例数

昨年は600を超える手術を行い、その半数近くが頸椎椎弓形成術。同センターでは6名の医師が所属し、それぞれの得意分野を活かしながら連携し、治療や手術を行っている



脊椎脊髄センターの年間手術総数と内訳